



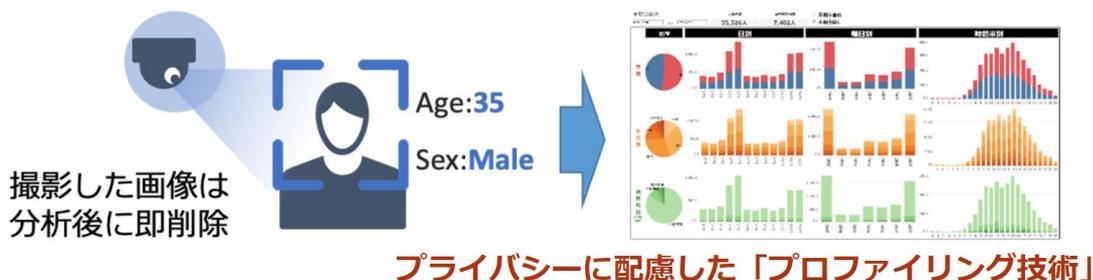
福岡市繁華街における「ICT等を活用した賑わい分析」の実証実験を開始

○取り組みに至った背景

- 九州大学 ICT 行動変容ユニット（代表：荒川豊教授）および九州大学持続的共進化地域創成拠点（以下、九大 COI）では、with&beyond コロナにおけるコロナリスク低減と社会活動の両立のため ICT 等による高度な分析結果を使った自律的な行動変容により多くのひとびとが自然と安全安心で楽しめるまちづくりを目指しています。
- 令和3年度に終了する九大 COI の研究活動を発展的に継承し、まちの「あんしん・あんぜん」および「賑わい創出」にかかる都市サービスの社会実装を推進するべく、福岡市繁華街におけるカメラ映像を活用した人流分析実証実験を実施します。
- 本実証実験は、2020 年 11 月に福岡市の「実証実験フルサポート」に採択されたプロジェクト (https://www.kyushu-u.ac.jp/f/41113/20_10_30_01.pdf) を、AI カメラの設置箇所を拡大して、賑わいの分析だけでなく、さりげない行動変容を促す実証実験を九州大学 ICT 行動変容ユニットで実施するものです。

○実証実験で使用する人流計測・賑わい分析技術・可視化技術について

- NEC ソリューションイノベータ製の画像による人物像分析システム「FieldAnalyst」を採用し、対象エリアの 10 カ所のカメラ画像からリアルタイムに人流および人物の属性（年齢・性別）の収集を行います。収集された「属性付き人流データ」を元に、これまで九大 COI が研究開発を進めてきた新しい賑わいの指標を適用、エリアマネジメント団体や自治体関係者等に有効な可視化機構を検討し、特にプライバシーに配慮したプロファイリング技術の確立を目指します。

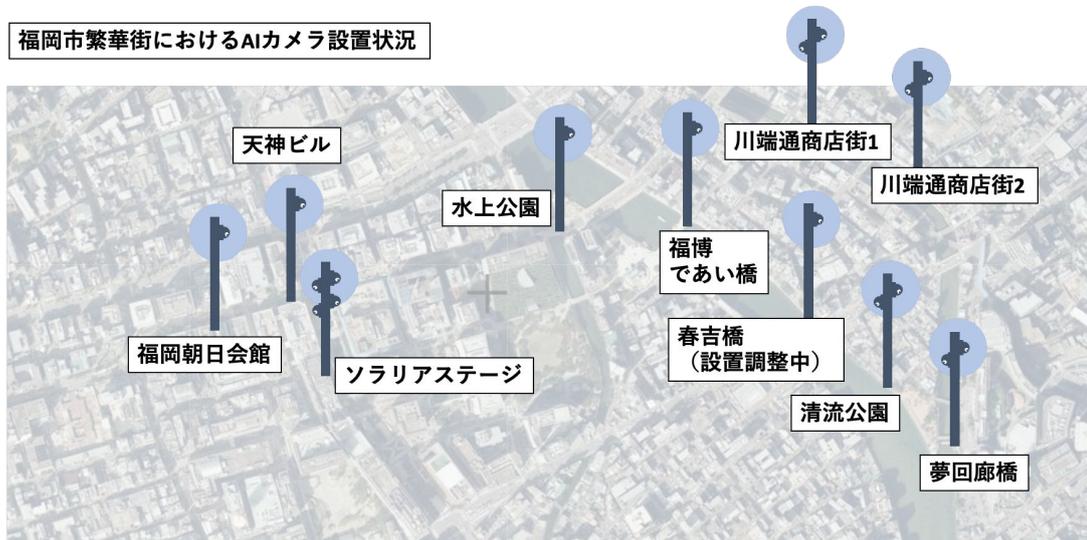


- 本実証課題において取得する個人情報は、個人情報の保護に関する法律その他関係法令に従い、下記のとおり個人情報の適切な取得・利用・管理に努めてまいります。

○実証実験の内容

- 本実証実験「ICT等を活用したまちの賑わい分析」では、福岡市、天神明治通り街づくり協議会、西日本鉄道、川端通商店街、九州先端科学技術研究所の協力のもと、福岡市繁華街の 10 カ所に合計 17 台の AI カメラを設置し、AI 画像解析技術を用いて、取得した画像から「属性付き人流データ」を生成し、さらに気象データやイベント情報等を加えることで、様々な要素が売上げやまちの賑わい創出に与える影響を分析します。特に、新型コロナウイルスによるパンデミック終息後の地域経済の復興に向けて、有用性を検証します。

福岡市繁華街におけるAIカメラ設置状況



- ・ 本実証課題の目的は、センシングにより得られる情報から個人を特定することではなく、人流・賑わい分析にあります。そのため、センシング情報を複合してより効果的に分析をすることはありますが、個人特定は行いません。また、ネットワークカメラから得られる原データは現地のサーバで分析後に即削除し、外部のサーバに送信・蓄積等はいたしません。ただし、原データを解析することで得られる統計データについてはオープンデータ化し、二次利用を行う可能性があります。

○今後の展開について

- ・ 複数台のAIカメラにより得られる「属性付き人流データ」による賑わい分析手法の提案、検証を重ねていきます。
- ・ 属性付き人流データのオープンデータ化を実現し、まちの賑わいに資するアプリケーションの開発に寄与します。
- ・ そして、他地区への展開を検討していきます。

【お問い合わせ】 九州大学 ICT 行動変容ユニット 高野 茂
Mail: takano.shigeru.019@m.kyushu-u.ac.jp